



(最新の患者情報)

発生動向等サーベイランス情報

県内の感染症の情報をメールで定期配信中

栃木県感染症情報センターでは、県内の感染症関連情報をHPで公開しています。また、HPの公開に合わせて希望者にメールを配信していますので、メーリングリスト（TIDC*メール）にぜひ登録してみてください！

① 配信の頻度

原則 週1回

② 注意事項

「TIDCメール」は以下のアドレスから送信します。

迷惑メールフィルタを設定している場合は御注意ください。

kenkou-kc-tidc@pref.tochigi.lg.jp

③ 登録方法

件名に『TIDCメール配信希望』と明記し、メールを送信してください。

新規登録申込先メールアドレス：

kenkou-kc-tidc@pref.tochigi.lg.jp

送信内容：1. 氏名

2. 所属

3. メールアドレス



▲TIDCメール
(栃木県HP)

*TIDC : Tochigi prefectural Infection Disease surveillance Center

感染対策のポイント

シリーズ20：麻しん（はしか）の発生が大ごとにされる理由

子どもを中心にして流行する感染症には様々なものがあります。手足口病、プール熱、咽頭炎など、毎年のように流行するものもあれば、風しんや水痘、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）のように、ワクチンで流行が抑えられていて、様々な条件によって時々流行するものもあります。この中で、麻しん（はしか）は別格の扱いをされていて、1例でも発生すると、大々的に報道されたりして大ごとになります。麻しんは感染の拡がり方が強力で、免疫がない人が感染者に接触すると、ほぼ100%発症することが知られています。また病原性も高く、先進国でも30%近くに中耳炎や肺炎などの重大な合併症が見られ、1000人あたり1人は死亡するとされています。ほかに、数千～数万人に1人は、治癒してから数か月～十数年の期間を経て、脳が進行性に障害される後遺症である「亜急性硬化性全脳炎」も無視できません。



感染症専門家からのアドバイス

麻しんは、有効な治療法もなく、予防が重要となります。麻しんワクチンは、数あるワクチンの中でも、専門家が強く推奨するものとなります。2回の接種が必要ですが、生まれた年代によっては1回しか接種していない方もあり、追加の接種が予防に有用となります。